

シリーズ企画! あいぷろを支える人たち

インタビュー
株式会社ユー 向井さん



シリーズ第3弾となる今回は、地域情報誌『YOUよっかいち』を発行している株式会社ユーの向井さんにお話を伺いました。

向井さんとはあいプロジェクトがまだNPO法人だった平成19年からの付き合いで、情報誌『YOUよっかいち』を会員で配達するところから始まりました。今ではYOUポスティング作業はサポートセンターあいぷろの仕事として定着し、また、『YOUよっかいち』にてあいプロジェクトの活動紹介を連載させていただきなど、より深く関わらせてもらっています。

(インタビュー) ~ 地域情報誌の取材をする中で、四日市の街の特徴や文化についてどのような印象をお持ちですか? ~

(向井さん) 街というより人の印象が強いです。いろんな業種の店舗を取材していますが、初めて何う時でも話を聞いてくれる人が多く、好奇心が強くていろんなことを吸収しようという人が多いように感じます。

(インタビュー) ~ あいぷろの印象は? ~

(向井さん) あいぷろさんとは4年前からの付き合いで、その頃からは利用者さんやスタッフの数も増え、規模も中身も大きく変化したと感じています。また、施設長の今村さんとは、本誌に連載記事を掲載させてもらっているため毎月お会いしているいろいろな話を伺います。いつも障がい者への強い想いを語られ、とても熱い人だという印象を持っています。

(インタビュー) ~ 向井さんが今一番書きたいことは何ですか? ~

(向井さん) 『YOU』は基本的には子育てを頑張る主婦や女性向けの情報誌なのですが、家庭を守る女性が健康で楽しく暮らすことで、家族みんなが、そして街全体が元気になっていければと思っています。そういう意味で、今一番伝えたいことは『乳がん健診の必要性』です。まだまだ認知度・受診率ともに低く、『YOU』を通してピンクリボンの活動を広めていきたいと考えています。女性、とりわけ母親の健康について、多くの人に意識を持ってもらえればと思います。

(インタビュー) ~ 最後に、あいぷろに関わる人達に一言お願いします ~

(向井さん) あいぷろさんは社会福祉法人になって2年目ということで、これからどんどん充実していく施設だと思います。皆さんには夢を持ってこれからも頑張っていってもらえたらと思います。今後とも末永いお付き合いをよろしくお願いします。

インタビュー後記

インタビューを通し、向井さんの人柄の良さや優しさが強く伝わってきました。それは、ピンクリボンの活動に熱心だったり、夢を持つことの大切さを話してくれたことももちろんですが、インタビュー中の話し方や表情、相手への気配りに随所に表れていました。あいぷろと株式会社ユーが深く関わることが出来るのも、向井さんがいたからこそだと改めて感じました。地域をより良くしていくという点で、あいぷろと『YOUよっかいち』の活動目的は共通しています。これからも長くお付き合いが出来ればと切に願っています。今回はお忙しい中、貴重なお時間を割いていただきありがとうございました。

あいのコラム

自分のことを知っているようで知らないこともある。日々いろんな人との関わりや経験を通して変わっていくものがある。得意なことや嫌いなことはすぐには変わらないけど人からの評価で得意になったり、好きになることもある。ずっと同じままの人なんていない。自分を知ることは案外難しい。

☆☆☆ あいぷろ通信 ☆☆☆

平成23年7月15日発行
第15号

新メンバーの紹介!!!



~ 今年4月よりあいぷろに加わった人たちを紹介します ~



森浩樹さん (18歳)

古川学園の調理科を今年3月に卒業、4月からサポートセンターあいぷろの作業生として社会人の仲間入りしました。これまでの学生生活と違う生活に、戸惑いや不安も多い中、毎日笑顔を決して一生懸命作業に取り組んでいます。

四日市羽津のアンサンブルスクエアガーデンにあるカフェ『カフェ・ド・ルーージュ』でパティシエをしている三浦治美さんが、製菓作業のアドバイザーとして毎週1回来てくれています。お菓子作りのプロが来てくれていることで、あいぷろの商品もレベルアップ間違いなし!



三浦治美さん (37歳)



村田里恵さん (22歳)

5月より、名古屋学芸大学4年生の村田里恵さんが、毎週金曜日に作業所のボランティアに入ってくれています。6月からはほっと あいのヘルパーの一員として、移動支援や居宅介護の支援に入ってもらっています。勉強熱心で前向きな彼女をよろしくお願いします!



國枝夕姫さん (22歳)

日本福祉大学4年生の國枝夕姫さんが、ほっと あいのヘルパーの一員として、移動支援や居宅介護の支援に入ってもらっています。岐阜県可児市に住む彼女ですが、あいぷろで働きたいという思いで四日市まで通ってきます。エールをお願いします!

あいぷろ流しそうめん&カレー作り 7 / 29 (金) に実施します!!!



7月29日(金)にあいぷろ事務所にて、『流しそうめん&カレー作り』のレクリエーションを実施します。例年の夏祭りとは趣向は違いますが、作業所が中心となって作るおいしい夏野菜カレーとそうめん等々ふるまいますので、ぜひ遊びに来て下さい。皆様との交流を楽しみにしております。

【時間】 11:30 ~ 13:00頃 【場所】 あいぷろ事務所

例年実施していたバザーやゲーム大会などはありませんのでご了承下さい。

義務教育段階から『働く体験』を

今から約40年前、大学を卒業して初めて四日市市立中部中学校に赴任した。当時の中学校特殊学級では、教育の中心が作業学習(生産学習)であった。卒業後、社会で活躍できる子を育てるには、中学校の段階から「働く体験」をさせることが重要だと考えられていた。これは、当時流行だった東京の青鳥養護学校の「学校工場方式」を参考に教育課程が組まれていた。読み・書き・計算といった学習の他に、週に1回は朝の1限目から昼食休憩を挟んで6限目まで作業が続けられた。私が赴任した学校では「土鈴」を作っていて、石膏型に「どべ」を流し込み、型を外し玉を入れて張り合わせるという作業をしていた。簡単そうに見える作業でも、担当する教師にとっては特別な知識と技能が必要だった。「どべ」の作り方はとても難しく、何度も失敗を繰り返した。素焼き後の「釉薬掛け」も難しく、量が多すぎると大変なことになってしまう。1200度近くまで釜の温度を上げるには長い時間が必要で、釉薬の溶け出す温度を想定しながら温度管理するのは、楽しみでもあり緊張する時間帯でもあった。たまたま陶芸を職業としている保護者に教えてもらったので助かった。釜を開けるときは、心をどきどきさせながら生徒と共に取り出した。生徒が一生懸命作った作品が、割れたり、ひびが入ったり、時には棚板にくっいたりすることもあった。うまくできた作品は、保護者の協力を得て、御在所ローブウェイ近くのみやげ物屋さん並べられていた。遠足に行った時、生徒がこの土鈴を見つけ「あっ。僕の作った鈴がある。」と大喜びしたことを思い出す。

この40年間に、入級してくる生徒や事業所での作業内容が大きく変わってしまった。中学校特別支援学級での作業学習の時間数も激減している。卒業後、就職を目指す生徒もいなくなってしまう、多くの子が作業所や特別支援学校の高等部に進んだり、高等学校への進学を希望したりする子が増えているのが現状である。進路指導の主体は、特別支援学校の高等部に移ってしまった。しかし、将来の社会生活を考えると、義務教育の早い段階から「働く体験」をさせることは大切だと今も考えている。作業中の態度や休憩時間の使い方、作業場でのあいさつやことば遣い、人間関係、周りの人への気配り等、学ぶべきことは一杯ある。しかし、今の義務教育でこれらを学ぶ機会はないと言っても良いだろう。近年、中学校・高等学校・特別支援学校で職場体験学習が積極的に取り入れられるようになった。障害のある子の実習にはきめ細かな事前の学習と準備、そして実習先でのよりよい支援が必要である。平成17年4月に発達障害者支援法が施行され、福祉・教育・医療・就労面で理解が急激に進んでいるが、子どもたちが地域で暮らし、自ら望む職種に就くには課題が多過ぎる。今後、子どもが安心して学校生活を終え、社会参加ができるようになるには、就労先を含めた地域が、今までの職域を柔軟に見直し、関係機関同士が新たな連携を図っていくことが重要である。また、福祉サービスの更なる充実と、ジョブコーチやジョブサポーターの育成が喫緊の課題だろう。

2011年7月1日
四日市市教育委員会教育支援課
相談員 長谷川時三

長谷川先生プロフィール

四日市市立中部中学校障害児学級担当として、四日市市での教員生活をスタートする。

四日市市立南中学校教諭。東京へ内地留学し、作業学習や宿泊体験学習について学ぶ。その体験を活かし、三泗の障害児学級在籍児童生徒が共に学習や活動する場である三泗障害児学級連合行事(中学校連合合宿・潮干狩り・運動会・学習発表会)の草創期において、その運営や発展に尽力する。特に、宿泊体験学習の重要性を教育委員会へ働きかけ、中学校連合合宿の実現に中心的な役割を担う。

四日市市教育委員会指導課障害児教育担当指導主事として、5年間就学相談や障害児教育充実にかかわる業務を担う。

四日市市立朝明中学校教諭。

3ページにつづく 

四日市市教育センター教育相談担当指導主事として、5年間発達障害や不登校にかかわる相談を行うとともに教育研究を実践する。

四日市市立中部中学校教頭。臨床心理士資格を取得する。

四日市市立教育委員会指導課課長補佐。

四日市市立三滝中学校校長。

四日市市教育委員会人権・同和教育課長。NPO活動に参加。

四日市市立内部中学校校長。三重県特別支援教育研究会会長。

退職後、四日市市教育委員会教育支援課嘱託として、教育相談を担当する。個々のケースについて、指導主事や相談員へのアドバイスを行うスーパーバイザー的な役割を担ってもらっている。

教育委員会の業務以外にも、障害がある子どもの保護者や関係教職員と連携し、主に障害がある子どもの学習・生活支援や進路相談および保護者支援に活躍されている。



前回に引き続き商品販売先のご紹介をします。
今回紹介するのは、『修庵』さんと、『平野舎』さんです。2店ともお弁当屋さんで、月に2回ほど、作業所で作ったお菓子を販売してもらっています。
『修庵』さんは、JR四日市駅より徒歩4分ほどの四日市本町にあるお店です。
『平野舎』さんは、四日市法務局の傍にある、イトイン・テイクアウトのランチ専門店です。

【修庵】	【平野舎】
(住所) 四日市市本町8-8	(住所) 四日市市三栄町2-11
(電話) 059-356-3933	(電話) 059-357-0180

お知らせ

4月より、四日市市西富田町にあるフレスポ四日市富田内にあるスーパー『フランテ』の店先で月2回程度の店頭販売を行っています。
販売日時については、あいプロジェクトHPにて毎月UPしていますので、チェックしてみてください。
作業生が自分たちの作った商品を直接販売するとてもいい機会となっています。お近くを通った際にはぜひお立ち寄り下さい！

【あいぷろHPアドレス】<http://i-project-mie.com/>

【フレスポ四日市富田】三重県四日市市西富田町字大宮田249-12



あいぷろ利用者の保護者が、子どもへの想いを綴るコーナーです。
6回目となる今回の書き手は、前回走者の荒木さんからタスキを受けた、中山雄介さん(23歳)のお母様です。

『居場所』

今から2年ほど前の雄介は、あいぷろに通っていたにも関わらず自分の「居場所」が定着せず、家出をして自転車で京都まで行ったり、自宅も「居場所」としては居心地が悪かったのだと思います。
現在は、沢山の方々にお世話になりながら、ヤロウファームでの職場実習や農作業、草刈り作業など、暑かったり大変だったりする中でも弱音を吐かず仕事を頑張っています。
今年の私(母)の誕生日には、あいぷろのケーキにデコレーションをしてパースデイケーキを作ってくれました。
将来は、社会と少しでも関わって生きていけることを望んでいます。

サポートセンターあいぷろ作業生 中山雄介の母(ふみ恵)

次回は西村健志さんのご家族の予定です。乞うご期待！